

**Tsukuba-Hamburg Networking Challenge Grant**  
**-International and Transdisciplinary Research Team Building**  
**for Early-Career Researchers-**  
公募要領（第1期）

筑波大学 URA 研究戦略推進室

## 1. 趣旨

世界は今、VUCA 時代（不安定、不確実、複雑、曖昧）といわれるほど、変化の早い・複雑で予測しにくい時代に入っています。学問上の難問にチャレンジすること、そして地球規模で直面する諸問題を解決するには、これまで以上に自然科学と人文・社会科学との融合が不可欠であり、優れたシーズを将来にわたって創出し、分野横断的な研究を推進する必要があります。一方で、我が国では研究者の流動性不足や国際的地位の低下が懸念されており、豊かな発想と国際的視点を持つ研究者の輩出が求められています。

## 2. 概要

本事業は、筑波大学（日本）とハンブルク大学（ドイツ）が共同で両大学の有望な若手研究者を結びつけ、学問上の難問及び地球規模レベルの重要な研究課題に取り組む国際的および学際的な人脈作り、チーム形成を目的としています。両大学より幅広い分野からの研究者を募集し、本質をついた型破りな研究アイデアを基に、多分野からなるチーム形成に要する経費を支援します。様々な分野の研究者と研鑽する場を作ることによって、研究構想を発展させ、科学イノベーションに資する新規分野等の創出につなげます。

## 3. 対象とする研究テーマ

本公募の研究テーマは、「手書き文化の探究」と「気候変動」です。

### ①手書き文化の探究

何世紀もの前のアラビア語のコーラン、聖書の写本、ホメロスのイリアスの断片など、手書き文化は印刷技術が登場する前から世界の文化を形作ってきました。人文科学、自然科学、コンピューターサイエンス、心理学等のさまざまな分野の研究者が、手書き資料に焦点を当て、分野を超えた連携を拡大させています。今日でも、手書きは多くの文化で重要な役割を果たしており、今回の公募事業により学際的なアプローチから手書き文化の探究に焦点を当てます。

#### [研究ネットワーク活動のイメージ例]

#### 日本や中国の中世以前の文書の研究者の場合

- 文書において描かれている生物（植物、動物、細菌など）について注目し、生物学者と共同研究テーマの設定。
- 植物・動物は人間の食糧でもありとらえ、食物科学、医学の研究者と連携したテーマ

の設定。

- 歴史的な観点では耕作による食料の安定供給は、計画的な労働を必要とし、村の組織化、貧富の格差を生み出してきたが、食べ物の種類（肉、植物、魚等）によりそれらの社会発展が異なります。これらを比較研究するため、歴史学者、社会学者共同した研究テーマの設定。

## ②気候変動

地球温暖化を防ぐために、様々な分野から問題の解明に焦点を当てます。

### [研究ネットワーク活動のイメージ例]

- 古文書に記された記録から、当時の人々がどのように気候変動がもたらす恩恵や弊害に対応したか？
- 気候変動が食料生産や人々の生活にどのような影響を与えたか？
- 国は気候変動への対応として、政策や戦略、計画についてどう取り組むべきか？
- 気候変動の影響を減らすために、学术界、社会においてどのような教育や啓発が必要か？
- どのような組織マネジメントが必要か？
- 発展途上の地域で、女性や若手、地域から取り残されたコミュニティに重点をおきながら、気候変動に関する効果的な計画を立てたり、管理する能力をどのように向上するか？

## 4. 事業計画

第1期は、2022年度末（2023年3月31日）までに若手研究者が相手大学を訪問し、異分野の研究者と実際に議論し、研究チームを形成することを目指します。具体的には、第1期公募の締切（2022年12月12日）までに希望するハンブルク大学の連携研究者を少なくとも1名を決め（申請時点では連携研究者への事前相談を推奨します）、研究アイデアの深化を目的とする学際的な研究チーム形成の計画書を提出します。両大学のURAと国際コーディネーターは、申請前と採択後のチーム形成に必要な研究者のマッチングを支援します。

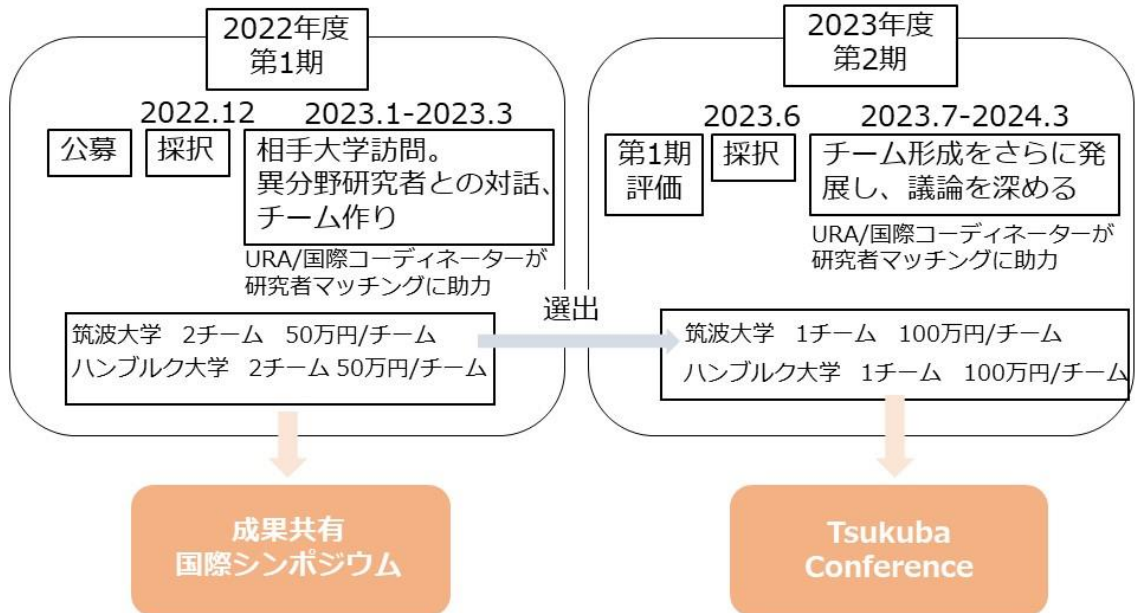
両大学で国際・学際経験（多分野研究者とのチーム形成を行う時の発想、苦労、工夫、得られたことなど）を広げるため、2023年度5月にはシンポジウムを開催し成果発表を行う予定です。

研究アイデアをさらに深化させ、国際・学際チーム作りの経験を活かせるよう、2023年度には、審査委員会が2022年度チーム活動報告を基に、各大学から1チームを選びます。選ばれたチームには2023年度末まで追加で約100万円を支援します。

### マッチング支援の実施

応募にあたり、ハンブルク大学の異分野の研究者との連携を希望する場合は、URAと国際コーディネーターが研究構想に沿って、研究者の紹介（マッチング支援）を行います。支援の範囲はマッチングまでとし、申請内容への支援は行いません。

Networking Challenge Grantは、若手研究者が海外の異分野の研究者とネットワークの構築、仲間獲得を支援するプロジェクトです。多様な分野の研究者と研鑽する場を作ることによって、研究のアイデアを発展させ、新しい科学イノベーションの創出に繋がります。



## 5. 応募要件

本公募は若手研究者（ポスドクを含む）を対象とし次の要件を満たす者とします。

- 1) 博士号、またはそれに類する学位を取得していること。
- 2) 申請代表者の最終学位取得後概ね15年以内であること。
- 3) 申請者は筑波大学で雇用されていること。
- 4) ポスドクが研究代表者として申請するには雇用者（受入教員）の了承が必要。
- 5) 他の研究機関からの参加も可能。
- 6) 申請時に希望するハンブルク大学の連携研究者を少なくとも1名を決める（申請時点では連携研究者への事前相談を推奨します）

## 6. 評価基準

審査に当たっては、以下の観点を基準とします。

- 1) テーマに合致していること。  
研究の新規性、学術性（新しい知識又は概念の展開の可能性、研究方法などの点で学術的価値が高いこと）。
- 2) チーム形成計画、発展性  
チーム形成計画の挑戦性、創造性と将来性
- 3) 異分野連携・融合研究

異なる学問分野間の連携・融合研究の必要性が明らかであり、チーム仲間獲得計画を通して、両国の研究者が協力して異分野連携・融合する意義が明らかであること。

4) 国際性及び相乗効果（相手国との交流の意義）

相手国との学術交流の必要性が明らかであり、チーム仲間獲得計画を通して、両国の研究者が協力して学術交流することの意義が明らかであること。

7. 採択予定件数

（第1期）筑波大学 2件程度

ハンブルク大学 2件程度

（第2期）第1期の成果をもとに審査します。

筑波大学 1件程度

ハンブルク大学 1件程度

8. スケジュール

**[第1期 渡航期間 2023年1月-2023年3月31日]**

2022年12月12日（月）公募締切

2022年12月13日-12月22日 審査

2022年12月23日（予定）結果通知

2023年1月-3月 渡航期間

2023年4月 報告書提出

2023年5月（予定）シンポジウム開催

**[第2期 渡航期間 2023年7月-2024年3月31日]**

2023年5月又は6月（予定）第1期評価

2023年6月末（予定）第2期結果通知

2023年9月 筑波会議に参加

2023年7月-2024年3月（予定）渡航期間

9. 支援経費及び渡航期間

1) 経費規模

第1期（2022年度）：1チーム当たりの支援上限は50万円とします。

第2期（2023年度）：1チーム当たりの支援上限は100万円とします。

2) 支出可能な費目

- 旅費：申請代表者及び研究参加者の共同研究目的地までの航空運賃、滞在費など。申請代表者の渡航は必須です。
- その他：当該プロジェクトを遂行するために必要な経費（例えば、印刷製本費、機器リ

ース費用、雑役務費など) パソコンの購入は不可です。

[使用ルール]

- 他の経費と合算することができます。
- 経費執行の翌年度への繰越は、不可とします。

### 3) 渡航期間

(第1期) 渡航期間は、1週間以上を目安とします。

## 10. 応募方法

所定の申請書(様式1)はu-radを使用して提出ください。

[https://u-rad.sec.tsukuba.ac.jp/login/index.php?support\\_id=DBc2E1qSQgwHC7MNVoBD6w%3D%3D](https://u-rad.sec.tsukuba.ac.jp/login/index.php?support_id=DBc2E1qSQgwHC7MNVoBD6w%3D%3D)

## 11. 応募締切

2022年12月12日(月)

[留意事項]

渡航前、相手国の多様な分野の研究者とのネットワーク構築にURA、国際コーディネーターが助力することが可能です。

## 12. 採択後の義務

- 採択課題については、URA 研究戦略推進室のホームページ、COTRE 等にて公表します。
- URA 研究戦略推進室が実施するシンポジウム等への協力をお願いします。
- 報告書の提出(2023年4月)および、必要に応じて、研究の進捗状況や外部資金獲得状況等の報告。
- 学会発表や論文発表等において、本プロジェクトの支援を受けた旨を表記すること。

## 13. お問い合わせ

ご不明な点やご質問等ございましたら、以下までご連絡ください。

URA 研究戦略推進室 陳・麻生・加藤

Email: global\_ra@un.tsukuba.ac.jp

Tel: 029-853-2930